

問1 鎌倉時代に制定された「御成敗式目（貞永式目）」について、その制定の背景や内容として正しい説明はどれですか。（2026年 富山公立入試 類似）

1. 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。
2. 江戸幕府の将軍が、全国の大名を統制するために、城の修理の制限や参勤交代の義務などを定めた。
3. 聖徳太子が、官吏としての心得を説くとともに、仏教を敬い天皇の命令に従うことを求めて定めた。
4. 徳川吉宗が、裁判の基準を統一して能率的に処理するために、過去の判例などをまとめた法律として定めた。

問2 1232年に制定された法典の条文において、諸国の「守護」が担当すべき職務として限定された内容の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 御家人への京都警備（京都大番役）の催促と、謀反人や殺人人の取り締まり
2. 国内の農民からの年貢徴収と、耕作地の管理・開発
3. 国分寺の建立と、仏教を通じた地方の治安維持
4. キリスト教の布教禁止の徹底と、外国船の打ち払い

問3 大モンゴル国の皇帝から送られた国書への対応に迫られていた時期の鎌倉幕府の状況として、当時の年表の内容と合致する説明はどれか。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 北条泰時が武士の裁判基準として御成敗式目を制定した1232年から、約40年ほど経過した時期であった。
2. 源頼朝が諸国に守護・地頭を設置し、鎌倉幕府が成立して間もない1185年頃の出来事であった。
3. 元寇の軍役負担で借金に苦しむ御家人を救うため、幕府が「永仁の徳政令」を發布した1297年以降の出来事であった。
4. 後醍醐天皇や足利尊氏らの動きによって、鎌倉幕府が滅亡に向かっていった1333年直前の出来事であった。

問4 鎌倉幕府が滅亡に至るまでの背景と経緯について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。
2. 承久の乱において朝廷軍が勝利し、その勢いに乗った新田義貞や足利尊氏が鎌倉の北条氏を滅ぼした。
3. 北条時頼が建長寺を建立して禅宗を広めたことにより、仏教勢力との対立が激化し、足利尊氏が天皇の命令を受けて幕府を滅ぼした。
4. 足利義満が日明貿易を独占したことと反発した有力な御家人たちが、後醍醐天皇を担ぎ出して1333年に鎌倉幕府を滅ぼした。

問5 鎌倉幕府が元軍による襲来に備え、また襲来後の防衛体制を強化するために、鎌倉から九州へかけての迅速な情報伝達を目的として整備・延長した制度の名称として正しいものはどれですか。（2024年 広島公立入試 類似）

1. 駅制
2. 参勤交代
3. 検地
4. 守護・地頭の設置

問6 鎌倉幕府において、将軍と御家人の間に結ばれた、土地を媒介とした主従関係を何と呼びますか。（2018年 高知公立入試 類似）

1. 御恩と奉公
2. 寄進地系荘園
3. 封建制度
4. 執権政治

問7 13世紀後半、モンゴル帝国（元）が二度にわたって日本へ侵攻してきた「元寇」の際、鎌倉幕府の最高責任者として、九州の御家人らへ軍役の指示を出し、京都や鎌倉の警備を指揮した人物は誰ですか。（2021年 福島県公立入試 類似）

1. 北条時宗
2. 北条泰時
3. フビライ・ハン
4. 源頼朝

問8 鎌倉時代中期、当時の巨大帝国であった元が日本に服従を求めてきた際、その要求を拒絶し、幕府の最高責任者である執権として大規模な防衛体制を敷いた人物は誰ですか。（2022年 香川公立入試 類似）

1. 北条時宗
2. 北条時政
3. 足利尊氏
4. 源頼朝

問9 鎌倉時代、宋（中国）で学んだ僧侶の道元が日本に伝え、ひたすら座禅を組むことで悟りを開こうとする教えを何といいますか。（2024年 長野県公立入試 類似）

1. 臨済宗
2. 曹洞宗
3. 浄土宗
4. 日蓮宗

問10 平安時代から鎌倉時代にかけての宗教の変遷について述べた文章のうち、正しいものはどれですか。当時の状況として、平安時代には阿彌陀如来を信じてその名を唱える修行が普及し、鎌倉時代には自らの力で悟りを開く修行が武士の間で支持された背景をふまえて答えなさい。（2024年 福井公立入試 類似）

1. 平安時代には浄土教による念仏が広まり、鎌倉時代には禅宗による座禅が広まった。
2. 平安時代には禅宗による座禅が広まり、鎌倉時代には浄土教による念仏が広まった。
3. 平安時代には祈祷による加持祈禱が広まり、鎌倉時代には写経による供養が広まった。
4. 平安時代には写経による供養が広まり、鎌倉時代には祈祷による加持祈禱が広まった。

問11 鎌倉時代、幕府を支える御家人の生活が困窮し、徳政令が出される背景となった社会的な要因について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 福岡県公立入試 類似）

1. 領地を子に分割して相続させたことで、代を重ねるごとに一人あたりの領地が小さくなった。
2. 貨幣経済が浸透したことで、農村での年貢の取り立てを厳しくせざるを得なくなった。
3. 一人の嫡子にすべての領地を相続させる仕組みが普及し、一族内の対立が激化した。
4. 幕府が御家人に対して全国一律の重い税を課したことで、農村経営が行き詰まった。

問12 鎌倉時代の将軍と御家人の関係を示す「御恩」と「奉公」の仕組みについて、その具体的な内容を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 将軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。
2. 将軍が全国の土地を国有化し、御家人には功績に応じた給料を支払った。
3. 御家人が将軍に土地を寄進し、将軍がその土地を荘園として管理した。
4. 御家人が幕府に税を納める代わりに、将軍が御家人の官位を保証した。

問13 鎌倉時代中期以降、それまで一般的であった領地の分割相続が御家人の生活を苦しめる要因となった背景について、最も適切な説明はどれですか。（2025年 鹿児島公立入試 類似）

1. 代を重ねるごとに一人あたりの領地が細分化され、軍役の負担に見合う収入が得られなくなったため
2. 幕府がすべての領地を回収し、長男以外の子供には領地を与えない単独相続を強制したため
3. 元寇の恩賞として大量の領地が配分された結果、管理コストが膨らみ生活が破綻したため
4. 貨幣経済が浸透し、領地から得られる農作物の価値が急落して分割相続が不可能になったため

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 執権の北条泰時が、御家人たちの間で増えていた領地争いの裁判を、武士の慣習に基づいて公平に裁くために定めた。	鎌倉時代初期の武士の間では、土地の境界や所有権をめぐる紛争が絶えませんでした。北条泰時は、それまでの貴族の法律（律令）ではなく、武士の実情に合わせた裁判基準を成文化することで、幕府の裁判に対する信頼を高めようとしてしました。この法律は、後の室町幕府や戦国大名の分国法にも大きな影響を与えました。
問2	答え 1 御家人への京都警備（京都大番役）の催促と、謀反人や殺害人の取り締まり	鎌倉幕府は守護の権限が拡大して荘園領主と対立することを防ぐため、守護の職務を「大犯三箇条（だいほんさんかじょう）」などに限定しました。具体的には、京都を警備する御家人に動員をかけることや、謀反人・殺人犯などの重大犯罪者の逮捕が主な役割とされました。
問3	答え 1 北条泰時が武士の裁判基準として御成敗式目を制定した1232年から、約40年ほど経過した時期であった。	フビライ・ハンの最初の国書が日本に届いたのは1268年であり、これは1232年の御成敗式目制定から約36年後のことです。この時期は鎌倉時代の中期にあたります。1185年は幕府成立期、1297年の徳政令は元寇による恩賞問題が深刻化した後のこと、1333年は幕府滅亡の年であるため、いずれも国書が届いた時期（元寇の前兆）とは異なります。
問4	答え 1 元軍の襲来（元寇）の際に十分な恩賞を与えられなかったことで御家人が困窮し、幕府への不満を強めた後醍醐天皇や足利尊氏らによって倒された。	鎌倉幕府は元寇後の恩賞問題などで御家人の支持を失い、政治的な混乱に陥っていました。この隙を突いて後醍醐天皇が倒幕を呼びかけ、これに呼応した足利尊氏や新田義貞などの有力な御家人の離反を招いたことが決定打となりました。建長寺を建立した北条時頼は5代執権であり、幕府の全盛期に近い時代の人物です。また、足利義満は室町幕府の全盛期を築いた将軍であり、時代設定が異なります。
問5	答え 1 駅制	元軍の襲来（元寇）という対外的な危機に直面した鎌倉幕府は、九州での合戦の様子を速報し、幕府の命令を迅速に届けるために、馬などを中継して連絡を行う「駅制」を九州まで延長しました。これにより、広範囲にわたる軍事指揮が可能となりました。
問6	答え 1 御恩と奉公	鎌倉時代の武士社会を支えた基本的な仕組みです。将軍が御家人の所領支配を認めたり新たな土地を与えたりする行為と、それに対して御家人が忠誠を誓い、軍役や警備の負担を負うという双方向の関係を指します。この関係は、単なる精神的な絆ではなく、土地の所有権という実質的な利益を介して成立していました。
問7	答え 1 北条時宗	鎌倉幕府の第8代執権であった北条時宗は、元の皇帝であるフビライ・ハンの服従要求を拒否し、文永の役・弘安の役の二度にわたる襲来に対して防衛体制を整えました。この際、幕府の権限を強め、九州に所領を持つ御家人たちに石築地（元寇防壁）の築設や警備を命じるなど、強力なリーダーシップを発揮しました。
問8	答え 1 北条時宗	鎌倉幕府の第8代執権である北条時宗は、モンゴル帝国（元）のフビライ・ハンからの通告を断固として拒否しました。日本史上最大の危機の一つとされる元寇に対し、九州の警備を強化する「異国警固番役」を設置するなど、武士を統率して防衛を指揮しました。
問9	答え 2 曹洞宗	道元は宋での修行を経て日本に帰国し、越前（現在の福井県）に永平寺を建立して曹洞宗を広めました。同じく座禅を重視する臨済宗が幕府や上層武士に支持されたのに対し、曹洞宗は地方の武士や民衆の間に広まったという特徴があります。
問10	答え 1 平安時代には浄土教による念仏が広まり、鎌倉時代には禅宗による座禅が広まった。	平安時代の中期から後期にかけて、阿弥陀如来を信じて「南無阿弥陀仏」と唱えることで極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土教（念仏）が貴族から民衆へと普及しました。これに対し、鎌倉時代には中国から禅宗が伝わり、自ら座禅を組む修行によって悟りを開こうとする教えが、規律を重んじる武士の気風に受け入れられ、幕府の保護を受けて発展しました。
問1	答え 1 1 領地を子に分割して相続させたことで、代を重ねるごとに一人あたりの領地が小さくなった。	鎌倉時代初期、武士の間では「分割相続」という、子に領地を分けて継承させる仕組みが一般的でした。しかし、この方法を繰り返すと、世代交代のたびに個々の武士が持つ領地が細分化され、収益が減少して生活が苦しくなりました。これに加え、元寇による軍役の負担や貨幣経済の広がりによる借金が重なり、御家人は困窮しました。幕府は借金を帳消しにする「徳政令」を出して救済を図りましたが、かえって経済の混乱を招くこととなりました。
問1	答え 1 2 将軍が御家人の領地を保護する代わりに、御家人は軍役などの義務を負った。	鎌倉幕府の主従関係は、土地を介した双務的な関係です。将軍は「御恩」として、御家人の領地（本領）を保証したり、新たな領地を与えたりしました。その見返りとして、御家人は「奉公」として、戦時に軍勢を率いて駆けつける軍役や、京都や鎌倉を警護する番役を負担しました。このように、土地の保証を対価として義務を果たす仕組みを封建制度といいます。
問1	答え 1 3 代を重ねるごとに一人あたりの領地が細分化され、軍役の負担に見合う収入が得られなくなったため	分割相続は、代を経るごとに個々の御家人が持つ領地を零細化させました。これに加え、蒙古襲来（元寇）での軍役負担が重なったにもかかわらず、防衛戦であったために新たな領地が与えられなかったことが、御家人の困窮に拍車をかけました。これにより、後の時代には領地を分散させない「単独相続」へと変化していくこととなります。